

誰でもやりたいことを実現できる世の中に ～新たな資金調達としてのクラウドファンディング～

インターネット上で資金を調達するクラウドファンディングサービスが成長しています。環境 NGO / NPO は、この新たな機会をどのように利用していただけるでしょうか。日本初のクラウドファンディングサービス「READY FOR?」を立ち上げた米良はるかさんに話を伺いました。

注目を集める「クラウドファンディング」

クラウドファンディング（以下「CF」）は、インターネット上でプロジェクトの資金調達をするサービスです。2012年には全世界で約3000億円の市場規模になりました。

READY FOR?（以下「レディフォー」）は、寄付のように慈善的にお金を出すのではなく、誰もがお金を「出す」、「出される」側になって、相互に応援できる仕組みをつくるために、2011年3月に日本で最初に立ち上げたCFです。現在、レディフォーの流通額は国内で最も大きく、年間3.5億円程あります。

CFには主に三つの種類があります。一つ目が「寄付型」。支援者が一方的にお金を提供するものです。二つ目が「購入型」。支援者にモノやサービスでリターンします。例えば、目標金額が30万円のまちづくりプロジェクトがあった場合、3千円出した人には報告レポートを、1万円出した人には、プロジェクトでつくったお酒を送るという形です。三つ目は「投資型」で、金銭的リターンをするもので、あまり広がっていません。

レディフォーは、「購入型」で All or Nothing の仕組みになっていて、掲載するプロジェクトには目標金額と募集期間を設定してもらい、期間内に金額が集まった場合のみ成立します。

挑戦者と支援者を結ぶ

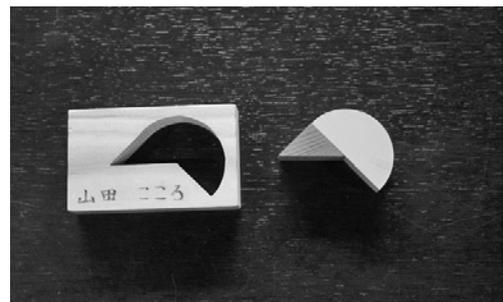
国内にいくつもCFはありますが、レディフォーを利用している多くがNPOや社会貢献活動をされている団体また個人で、社会企業と呼ばれる方にも多く使ってもらっています。ファンとのコミュニケーションの場とイメージしてもらおうと分かりやすいと思いますが、支援者とコミュニケーションをとって、一緒に何かの課題を解決していくプロジェクトは非常にうまくいきやすいです。社会企業のように志があり、どんどん人を巻き込んでいく方には、使いやすいしくみだと思います。また、レディフォーの特徴として、一つ一つのプロジェクトに、プロジェクトのデザインを一緒に行うキュレーターを用意しています。キュレーターは、掲載ページのテキスト、写真をどうつくるか、リターンや金額の設定や、掲載開始後の支援者とのコミュニケーションまでサポートしています。

環境のテーマでは、沖縄の「森のおもちゃ美術館」のプ

ロジェクトが非常に成功した事例です。600万円の目標金額に対して、約800万円も集めました。安心できる地元の木材で作ったおもちゃを美術館に寄贈するもので、1万円を出した方は、一口館長として、名前入りの「やんばるくいな」の積み木が館内に飾られます。積み木は、鳥の部分だけ郵送されてきて、型枠が館内に飾られるため、鳥の部分をはめに来てくださいというコミュニケーションになっています。

チャレンジできる社会に

CFは、海外では非常に成熟していて、日本でももっと何かを始める人が増えてほしいです。スタートするのはエネルギーが必要ですが、レディフォーでは、今まで600件以上のプロジェクトが誕生しました。サイト上からいつでも応募可能で、「実行できるか」という点について色々な角度から話を聞いて審査させてもらいます。私たちも色々なケースを見ているので、安心して任せていただけたらと思いますし、少しでも多くの団体が、この新しい試みにチャレンジしてもらって、自分たちの素晴らしい活動を多くの方に広めてもらいたいです。



ヤンバルクイナつみき

米良 はるか（めら はるか）

2012年慶應義塾大学メディアデザイン研究科修了。2010年スタンフォード大学へ留学し、帰国後、大学時代から関わっていたウェブベンチャー、オーマ株式会社にて取締役役に就任。2011年3月日本初のクラウドファンディングサービスREADYFOR?の立ち上げを行い、NPOやクリエイターに対してネット上で資金調達が可能にする仕組みを提供している。World Economic Forum グローバルシェイパーズ2011に選出され、日本人史上最年少でスイスで行われたダボス会議に参加。